

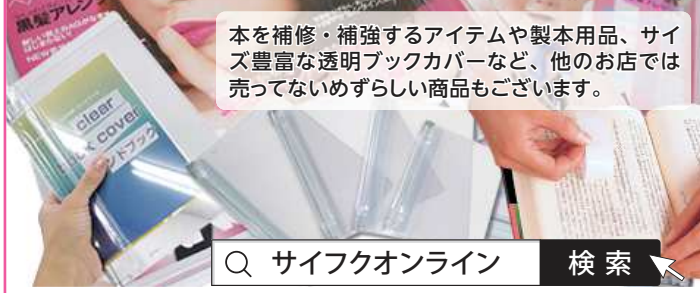
埼玉県高校図書館フェスティバル 実行委員会

ホームページ▶ <https://shelf2011.net/>

Twitter▶ https://twitter.com/shelf_20110219

Gmail▶ saitama.ichioshi@gmail.com

広告 読書のアイテムたくさん!! サイフクオンライン



本を補修・補強するアイテムや製本用品、サイズ豊富な透明ブックカバーなど、他のお店では売ってないめずらしい商品もございます。

サイフクオンライン 検索



制作協力(パンフレット印刷): 社会福祉法人 埼玉福祉会

1	JK、インドで常識ぶっ壊される	熊谷るか
2	香君上	上橋菜穂子
3	同志少女よ、敵を撃て	遠坂冬馬
4	宙ごはん	町田そのこ
5	13歳からの地政学	中田幸幸
6	その本は	又吉直樹、ヨシタケシンスケ
7	スラータ、16歳の日記	スラータ・アウツシコ
8	図書室のはこぶね	名取佐和子
9	汝、星のこゝろ	風見ゆづ
10	税金で買った本	藤原 義典、山岡 真由美



埼玉県の高校図書館司書が選んだ

イチオシ本

2022

2023年2月発表! Take Free!

イチオシ本

いざしはホームページへアクセスしてください

これがイチオシ本なのだ!

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本 10周年記念・公式キャラクター

まだまだあります! イチオシ本

惜しくもベスト10には入りませんでした、司書イチオシの本たちです。

両手にトカレフ(プレイディみかこ/ポプラ社)
◆表紙の少女のスカートは短い。オシャレで着ているのではなく、お金がなくて、丈が短くなったものを着るしかないから。少女を取り巻く環境は過酷で、自分には彼女に何ができるのか考えながら読んだ。
◆現代を生きるイギリスの少女と過去に生きた日本の少女、貧困家庭に暮らす二人の生きざまが交差していく。子どもを守るとはどういうことなのか考えさせられる作品。
◆図書館から広がり、つながる世界や時間を通して生きていく強さを得られます。◆子どもらしく過ごせない子どもたちについて、わかりやすい一冊だと思いました。

掏えぼ手には(瀬尾まいこ/講談社)
◆主人公の梨木 匠と出会った辛い経験をした人たちの心の交流。匠をはじめそれぞれが前に進もうとしている姿には希望が感じられる。
◆ただまっすぐ人に優しくできるって、すごい力。でも主人公の梨木君は自分のすごさに気づいていない。気づいていないところもすごさかもしれない。知らず知らずの内に読者の心も温めてくれているのだから。
◆周りの人たちの心に寄り添い受入れようとする主人公・匠の優しさに、心がじんわり暖かくなる小説です。

にゃんこ四字熟語辞典(西川清史/飛鳥新社)
◆かわいい猫の写真で癒されつつ、難しい四字熟語が覚えられるなんて一石二鳥です。◆役に立たないところがいい
◆世界中から集めた猫の写真に四字熟語を結びつけた、ユニークな辞典。
◆こんなにも四字熟語がわかりやすいものだとは思っていませんでした。手に取りやすく勉強にもなる。ホンワカする本でした。

さばの缶づめ、宇宙へいく(小坂康之、林公代/イースト・プレス)
◆探究学習に頭を悩ます高校生に読んでほしい、地域の名産・さば缶を宇宙食にするために奮闘した福井県の高校生達のノンフィクション。興味のある課題を突き詰めていくことの面白さがわかります。
◆高校で14年かけて作った宇宙食の鯖缶。学校の統廃合があっても消えなかった夢の商品が今自分の手元にあります(販売してました)。総合探究の完成形の一冊だと思えます。
◆世界初の宇宙食さば缶を開発したとある高校の情熱のバトンの物語に、読んでこちらまで熱くなります!

本屋図鑑(いまがわい/廣済堂出版)
◆司書という立場とはまた違った角度から本を好きなことを見つめなおせた本です。◆私たちの身近な本はどうやって本屋さんに売られているのか。本のうちくも詰まった楽しいコミックエッセイです。
◆本好き、本屋さん好きのための本!とは言い 4 コマのコミックエッセイ形式のため、お仕事本としても様々な人が楽しめる作品だと思えます。
◆書店のあるあるな日常からちょっとおもしろ事件まで、かわいらしい漫画で描かれています。コラムでは本や書店の仕組みについてとても詳しく知ることができます!

EMOII古語辞典(堀越英美/朝日出版社)
◆きらめく言葉が詰まっています。古語なんて現代で知っても……と思っているあなたが読む小説や漫画、見るアニメやドラマや映画にも使われているかも。過去は今に繋がっています。創作にもぜひ!
◆雰囲気がある、美しい、かっこいい言葉がいっぱい。古典の新たな楽しみ方の本! ◆日常語ではないけれど、まさにこれ、という情景やら心情やら風景やらを、気の合う仲間といっしょに、イイヨネー!とわいわいできる言葉の辞典。
◆外国語由来の新語を使う若者たちに「日本語には、こんな綺麗な言葉もあるぞ」と紹介するのに適していると思う。雅な世界に浸りつつ、日本語の美しさを堪能できる本。

女の子がいる場所は(やまじえびね/KADOKAWA)
◆サウジアラビア、モロッコ…日本。10歳の女の子の目から見た、生まれた世代、宗教、地域によって受けてきた様々な女性差別。すべての女性に明るい未来が拓かれますように…。まず知ることから。
◆「女性」というだけで被る理不尽。面倒くさいからスルーしていませんか。違和感を感じたら「おかしい」と声を上げていんです。男子にはこの本を読んで、ぜひ女子の味方になってほしいと思います。
◆祖母や母や姉への差別を目撃した少女が、変えるための一歩を踏み出す様子を描くコミック。応援したい気持ちになります。

マイスマールランド(川和田恵真/講談社)
◆難民や入管について考えさせられると同時に、女子高生である主人公の恋愛道が語られ、引き込まれました。難民問題について苦しいけれど身近なことを感じる物語になっています。◆川口市に暮らすクルド出身の高校生が主人公。迫害により土地を追われること、日本での難民認定制度の狭量さ等、人の生き方を不自由に縛る「境」を描き、それに抗う物語。
◆同名映画の小説版です。川口を舞台にクルド人一家の日常を、高校生の長女サーリヤの視点で描きます。好きな人とただ一緒にいることすら叶わない理不尽さ。難民問題について一緒に考えましょう。
◆難民や異文化について知ることができる本。舞台は埼玉。

カレーの時間(寺地はるな/実業之日本社)
◆少年のぼくと祖父の関係は、心理的に離れている。でも、カレーの時間だけは違うんだー 世代を超えた定番の味は、心の距離も詰めてくれる。美味しいカレー、他人のこと。想像を膨らませて読んでほしい!

◆何が大切な、人によって違ふけれど話をしなくちゃわからない。
◆主人公の桐矢は祖父と一緒に暮らすことになった。祖父そして家族や周りの人たちの物語。そこには「カレー」があった。

人間みたいに生きている(佐原ひかり/朝日新聞出版)
◆どんな人でも、相手とどんな関係でも、他者への理想と現実のギャップに苦しむことがあると思います。お互いが歩み寄り寄り合わせていくことは、難しいけれど大切なことだと感じました。
◆食べることで嫌悪を感じてしまう唯は、食べることができず「吸血鬼」として生きる泉さんを心の拠り所とするのだが……。人のどうにもならない「違い」とどう向き合うか、ヒントを与えてくれます。
◆理解してもらえないことに絶望するのではなく、伝えるための努力や前を向くための勇気も大切。自分らしく生きることに希望を持てる本です。
◆食に対して、ネガティブな感情を抱く人たちもいるという事実にはハッとさせられました。人と違うからといって、不幸であると決めつけなくてほしいと、自分の境遇に立ち向かう主人公が眩しかったです。

腹を割ったら血が出るだけさ(住野よる/双葉社)
◆「人に好かれなくて自分を取り繕ってしまう」という人はいますか?そんな生活に息苦しさを覚えている人に、ぜひ読んでほしい物語です。
◆何らかの「キャラ」を演じて生きることは多かれ少なかれあることだが、それが最も切実なのは思春期ならではなのかもしれない。
俺ではない炎上(浅倉秋成/双葉社)
◆なりすまされた SNS のアカウントが炎上し、指名手配犯にされてしまった主人公。自分がこんな目に合ったらどうなるんだろうかと想像しながら読みました。◆展開が面白く、続きが気になって一気に読みました! ◆SNS上の炎上という今日的なテーマながら、叙述トリックを使った本格ミステリ!

ペイント(イ・ヒョン/イースト・プレス)
◆親を選べることは幸せなのか、生みの親と過ごすことこそが幸せなのか。いろいろと考えさせられます。
◆「子どもが親を選べたら?」このテーマとこの本で集団読書やってみたい。
かみはこんなにくちやくちやくだけど(ヨシタケシンスケ/白泉社)
◆手に取りやすく、笑えたり、考えさせられるのが良いと思います。
◆嫌なことも辛いことも、くすくす笑って「そっか!」って思えちゃう。
あなたのための短歌集(木下龍也/ナノロク社)
◆誰かを思いやる気持ちは正に「尊い」! 言葉の連なりから生まれる「やさしさ」に何だか泣けてきます。ちょっと気持ちが荒んでいるときに、深呼吸の代わりになる1冊。
◆依頼者の想いをどう短歌に込めたのか。スリリングで温かいカウンセリングのよう。
◆人が人へ手渡すところの、なんと暖かいことかと思えます。
◆様々な依頼者の心の叫びを代わりに短歌にして昇華した百首。自分のために詠んでもらえるとは贅沢な体験で羨ましいです。

はじめての(島本理生ほか/水鈴社)
◆4名の作家さんによる短編集です。そのため、読書が苦手な子どもでも読みやすいと思います。作家さんごとに内容は全然違っているのに、どれも涙くんでしまうようなお話です。
ウクライナ戦争日記(Stand With Ukraine Japan/左右社)
◆2022年2月24日、ウクライナにロシアが攻めてきました。普通の人が体験した異常な日々を、日記によって知ることができます。21世紀にこんなことが…。信じられない気持ちです。
◆戦争が始まった当初のウクライナ人の緊迫した様子が伝わってきました。
◆マリウポリから東京まで、各地でウクライナ戦争を体験した24人の日記。どうか他人事だと思わず、今なお戦いの中で生きる彼らの生の声に、耳を傾けてほしい。

「ナバーム弾の少女」五〇年の物語(藤えりか/講談社)
◆世界で戦争が起こっている今だからこそ、生徒に薦めたい本
北欧こじらせ日記(週末北欧部chika/世界文化ブックス)
◆話題の「韓国推し!!」みたいなノリの本かと思いましたが、まさかの仕事まで求めてしまうとは。。。スキを極めた元気のもらえる作品でした。
◆読むと幸せになれる本。
神と王 亡国の書(浅葉なつ/文藝春秋)
◆宗教観や多様性など、現代社会にも通ずる様なテーマを織り交ぜながら綴られる異世界神話ファンタジーにハラハラドキドキさせられます。
幻告(五十嵐律人/講談社)
◆裁判って難しくよく分からない……という人にこそおすすめ。裁判の進行や量刑などが分かりやすく解説されます。そしてタイムループの醍醐味、ここがこう繋がるのか!と手に汗握る結末をお楽しみに。
ロシア点描(小泉悠/PHP研究所)
◆ロシアの国民性が良く分かります。異文化理解に必須。

ここで紹介しきれなかったイチオシ本たちは、埼玉県高校図書館フェスティバルホームページに掲載しています。詳しくは <https://shelf2011.net/> をご覧ください。

